

田んぼダム実証試験概要

能美市では、令和6年に田んぼダムによって水稻への収量や品質にどのような影響があるか実証試験を行いました。

実証試験の概要

- ・市内8か所において、比較できるよう隣り合う水田の一方に田んぼダム用の調整板（排水口径60mm）を設置し、他方は通常の状態で行い試験を実施
- ・水稻（コシヒカリ、ゆめみづほ、ひやくまん穀）の収量や品質にどのような影響（差）があるかを調査



使用した調整板



①調整板の設置(6月)



②坪刈りの実施(8~9月)



③乾燥(8~9月)



④脱穀・試験分析(9~10月)

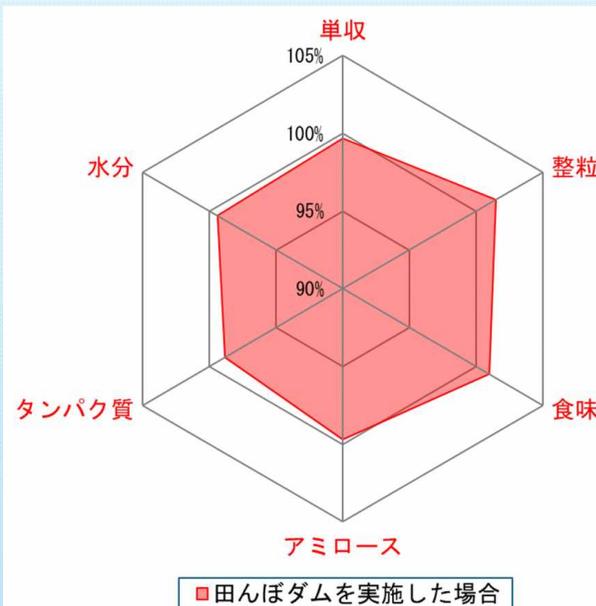
実証試験に協力頂いた農家の感想

- ・調整板を設置してもゴミの詰まりはなく、畦畔への影響もなかった
- ・調整板は設置したままなので、気にならなかった
- ・水管理に影響はなかった
- ・水はけが悪い水田の場合、排水時間の長期化が心配
- ・大豆作付け後、ゴミが増えやすく収穫後に残った茎等の詰まりが心配

試験分析の結果

- ・単収、整粒、食味、アミロース、タンパク質、水分の数値を分析
 - ・通常の水田の数値を100とし、田んぼダムに取組んだ水田の数値を比較した結果、99~101%であり、ほぼ同等であった(8筆の平均値)
- ⇒試験分析の結果、田んぼダムにより収量や品質が明らかに低下したとは断定できなかった

通常の水田を100とした場合の田んぼダムに取組んだ水田の分析結果



項目の説明	
単収	10a当たりの玄米重量
整粒	割れ米や未熟米などを除いた粒で玄米外観品質を評価する指標
食味	アミロース、タンパク質、水分の成分値により評価した値
アミロース	米に含まれている主成分硬さや粘りに影響
タンパク質	米に含まれている成分のひとつ硬さや粘りに影響
水分	米に含まれている水分量

どの項目もほとんど差がなかったよ



※各年の気候条件や生育条件により、影響差は変化することが想定されます

■能美市は、流域治水対策の一つの施策として「田んぼダム」を推進します

問い合わせ先：能美市役所 産業交流部農林課 TEL：0761-58-2256